

**第3回多治見市第7次総合計画策定市民委員会 会議録**

日 時	平成27年4月7日（火）午後6時00分～午後8時15分
会 場	多治見市役所駅北庁舎 4階 災害対策本部室
出席委員	古池嘉和委員（会長）、木下貴子委員（副会長）、飯野真理子委員、 宇佐見信一委員、奥村崇仁委員、隈元智子委員、小池雅子委員、 竹本幸二委員、堀尾憲慈委員、前田市朗委員、吉田有記委員、 若尾由美江委員 （委員15名中12名出席）
欠席委員	伊藤浜三委員、宮村登美子委員、山田輝幸委員
事務局	水野企画部長、桜井課長、岩島課長代理、長谷川課長代理、 水野総括主査、山内総括主査、御前主査、林主査
傍聴人	2名

**会議録要旨**

1 開会あいさつ

事務局職員の変更について（水野企画部長あいさつ）

2 議題（1）：第2回市民委員会会議録について

事務局 資料2「第2回市民委員会会議録」について事務局から説明

会長 修正すべき点等あれば指摘を求める。

《なし》

会長 第2回市民委員会会議録とする。

議題（2）：「討議課題集」について

第3章 2 多治見市はどのような都市を目指すのか

（4） 政策分野別の成果と課題

[政策分野] 都市基盤

会長 第2回市民委員会までで、討議課題集の第3章 [政策分野] 産業・経済まで説明済みであるため、第3章 [政策分野] 都市基盤について説明を求める。

事務局 討議課題集の第3章 [政策分野] 都市基盤を事務局から説明

会長 課題としてコンパクトシティがあるが、コンパクトシティを推進すると郊外が衰退してしまう恐れがあり、議論する必要がある。

委員 市内にある国道の課題について、市が対応することはできるか。

事務局 市が直接対応することはできないため、国への事業要望を行うこととなる。

委員 交通網は産業振興に密接に関係する。多治見市には、多治見駅南北交通

の課題がある。JR線路の高架化はできないか。

事務局 池田町から小田町までの線路の高架化は、地形などの問題から技術的にもコスト的にも困難である。ただし、駅周辺の交通網についての課題解決として、駅北土地区画整理事業地から東濃信用金庫本店までのアンダーパス道路の都市計画構想がある。限られた財源の中で優先度を市民委員会でも議論していただきたい。

委員 国道19号において、多治見市と土岐市の市境の渋滞が深刻であり、東濃東部からの人の流れを止めてしまう。国への要望だけでなく、迂回路等の市でできる事業を進められないか。

事務局 県事業として東濃西部都市間連絡道路がある。一部しか完成していないが、将来的には渋滞緩和に効果が期待できる。

委員 住吉土地区画整理事業の工事が始まった時に、木が伐採されて心が痛んだ。近くの風致地区内にシデコブシの群生地があるが、道路が通ることとなった。美しい風景づくりが課題として挙げられているが、むしろ美しい風景を残してほしい。

事務局 住吉土地区画整理事業地内は都市計画において、市街化を進める市街化区域である。平成8年に都市計画の線引きを行う以前から、事業計画があったものである。

景観が崩れたのであれば、その地域をどう美しく作るかが重要である。なお、住吉土地区画整理事業地には風致地区はないが、区画整理事業に伴う道路拡幅のため隣接する風致地区内で木の伐採が行われた。その際、シデコブシ群生地に近い場所であるため植生に影響を与えないよう留意すること、現状復旧することを指導している。

会長 風景づくりの方針について、考える必要がある。

委員 バス停までの距離や運行本数などが不便である。今は車で移動できるが、車が使えなくなると不安がある。まちなかへ行くきめ細かい交通網があるとよいと常に思っている。住民が乗合バスのNPOを立上げているところがある。市役所はそのようなNPO等に補助を出すなど、住民が気軽に利用できる仕組みをつくれぬか。

会長 市街地と郊外をつなぐ公共交通は、第7次総合計画の大きな課題である。

委員 コミュニティバスはどのようなバスか。

事務局 誰でも乗れる有料のバスで、多治見市が東鉄バスに委託し運行している。

委員 市民の困りごとは、起業家にとってはビジネスチャンスである。行政と民間の境目はどこにあるのか。

事務局 前提として、民間でできることは民間で行い、民間でできないが市民が広く求めるサービスを提供するのが行政である。ただし、民間にあるサー

ビスでもトレーニング施設のように、市の役割として市民の一部だけでなく全体へとすそ野を広げるサービスが混在している。この市民委員会で、民間に任せるサービス、行政が行うべきサービスについても議論していただきたい。

委員 コミュニティバスの利用者は少ないように思うが、利用者のニーズに合ったサービスにしてほしい。恵那市では、車両・ガソリン代は市が提供し、運転を地域のボランティアがやっている。地域の実情によって実現性は変わるが、成功例を参考に事業を考えてほしい。

会長 他の自治体の成功例を参考に計画してほしい。

委員 防災無線が聞き取りにくい。その他に周知する方法はないか。

事務局 事前に登録していただいている方には防災メールを送信している。また、ホームページやFM PiPi でも情報の発信をしている。

委員 防災拠点は、本庁舎と駅北庁舎どちらになるか。

事務局 地震については免震構造の駅北庁舎が、水害等の地震以外の災害については建設部・都市計画部がある本庁舎を防災拠点としている。

委員 防災では、ハード整備も重要であるが、人、共助、そのためのつながりが重要である。日頃からの人のつながりをどう作っていくのか、また、市がどのように地域防災力を養成するかが課題ではないか。

事務局 [政策分野] 都市基盤 2 居住環境 「②防犯・防災の共助」で課題として取り上げている。将来5課題の1つとして「地域力」を掲げている。市民が主体となっていただきたい内容であるため、市民委員会で議論していただきたい。

### 第3章 2 多治見市はどのような都市を目指すのか

#### (4) 政策分野別の成果と課題

##### [政策分野] 生活環境

事務局 討議課題集の第3章 [政策分野] 生活環境を事務局から説明

委員 歩いて行ける公園がない、公園が整備されていないと感じている。維持管理に経費がかかるのであれば、公園でお店を開いて、維持管理をさせてはどうか。

事務局 公共施設で一部の市民がお店を出すことは、公共の福祉に反するので、イベントなど特殊な場合を除いて原則できない。しかし、公共の福祉につながるのであれば、検討することもできるのではないかと考える。

委員 自治会で公園の清掃をしている。公園の利用方法等に自治会の裁量を持たせることはできないのか。

事務局 公共の福祉に反しなければ検討することもできるのではないかと考える。

会長 今後の行政運営では、柔軟な運営を検討する必要があるが、どこまで柔

軟性を持たせるかが非常に難しい。

事務局 現在、公園愛護会が少ない。今後も公園の維持管理を市民の皆さんにお願いしたいところだが、利用者でもある市民皆さんとの間に意識の差があるかもしれない。

委員 多治見市のごみ分別は他市と比べ進んでいると考えていたが、図表 3-74（リサイクル率の比較）では恵那市よりも低いのはなぜか。

事務局 生活系ごみと事業系ごみをあわせたごみ搬入量でのリサイクル率である。家庭から排出される生活系ごみより、事業系ごみに課題があると考えている。

### 第3章 2 多治見市はどのような都市を目指すのか

#### (4) 政策分野別の成果と課題

##### [政策分野] 保健・医療・福祉

事務局 討議課題集の第3章 [政策分野] 保健・医療・福祉を事務局から説明

委員 図表 3-95（各種健診（検診）受診率の推移）の受診率が低い。会社員として働いていたときは必ず年に1回健康診断を受けていた。健康診断に要する時間も1日で全てが終わる。しかし、会社を辞めた後に市の検診を受診したところ、1つの検査項目だけで半日かかる。なぜ複数の検診をまとめて受診することができないか。

事務局 多くの方からご意見をいただいている内容であるため、検診車のみでなく、医療機関での受診など創意工夫に取り組んでいる。

委員 乳がんや子宮頸がんなどのリスクが高い女性の受診率を上げるため、学校の授業参観に合わせて複数の検診車を集め、複数の検査項目を受診できるように工夫できないか。予約なども学校を経由すれば容易だと考える。

事務局 場所の確保など課題はあるが、健診に対する課題と1つのアイデアとする。

委員 結婚に関する支援とは何か。

事務局 現在は、結婚相談、モーニング婚活、婚活パーティを行っている。

委員 結婚相談や婚活パーティなどは民間でも行われている。また、コミュニティの崩壊が全てに及んだ結果と感じている。あまり行政が介入すると、コミュニティの崩壊が加速しないか心配である。

事務局 結婚に関する支援は、行政が介入すべきでないという考え方も、人口減少・少子化という課題に対し行政の対応の1つとする考え方もある。支援の必要性を含め、市民委員会で議論していただきたい。

委員 晩婚化の人に対する婚活支援は、あまり効果がないと考える。少子化への対策として、子どもに対し早く結婚し、早く子どもを設けることを教育として実施してはどうか。自分達が子どものころにはそのような教育がな

かったため、晩婚化してきたと考える。消滅可能性都市を脱却するためには、例えば、子どもを産むということにターゲットを絞り、総合的に政策を考えるべきではないか。

事務局 結婚支援はステレオタイプに解決できる問題ではない。結婚した夫婦が必ず出産するとは言えない。結婚相談の利用者も高齢化としているのが現状。第7次総合計画の中で議論していきたい。

会長 重要なテーマであることは確か。何をやるべきで何をやるべきでないかは議論する必要がある。

委員 若者にとっては聞きづらい話である。全国的に自治体が結婚に関する支援はあるが、多治見市にあっていのかどうか考えないといけない。自分だったら利用しない。多治見市の人口減少・少子化の原因は、晩婚化ではなく、結婚するために必要な雇用がないため、名古屋へ転出してしまうためだと考える。そういう支援をすべきだと思う。

仕事と育児の両立支援や少子化対策として女性支援が多いが、女性支援だけでは子育てが女性だけのことになってしまう。男性への支援が必要ではないか。例えば、男性があと30分遅く出勤すれば、2時間早く帰宅すれば女性の負担が減る。また、男性の給与が増えれば、女性の労働がなくなり女性の負担が減るのではないか。

委員 少子化対策として、結婚に関する支援は違和感がある。それより、産んで育てる環境の充実が必要で、中でも男性への支援が重要である。例えば、男性が育児休暇を取得できないことが課題である。男性の育児休暇の取得が増えれば男性の育児参加が増えるのではないか。

そのために、市役所の男性職員の育児休暇取得を率先して進め、多治見市として重点的に促進してほしい。

委員 民間企業として男性の育児休暇取得を進めているが、2人だけで、日数も1～2日だけというのが現状。市役所だけでなく企業も一緒に取り組むべきことだと思う。

### 第3章 2 多治見市はどのような都市を目指すのか

#### (4) 政策分野別の成果と課題

##### [政策分野] 行政運営・経営

事務局 討議課題集の第3章 [政策分野] 行政運営・経営を事務局から説明

委員 図表 3-101 (市民満足度 (職員の市民への対応)) の 0.07 とはどのような評価か。

事務局 2年に1回実施しているアンケート調査で、「職員の市民への対応」に対し、満足2点・やや満足1点・やや不満-1点・不満-2点として集計し、平均したものである。全部で50項目あるが、不満と感じているマイナス評価が33項目ある中で、満足と感じているプラス評価であるため、

市民には一定程度評価していただいていると考えられる。

委員 図表 3-102（残存耐用年数別にみた施設数）で耐用年数超過した主な施設は何か。また、残存耐用年数が 30 年以上ある施設は何か。

事務局 詳細は次回市民委員会で報告するが、耐用年数超過した施設は児童館、残存耐用年数が 30 年以上ある施設は根本交流センターや駅北庁舎などここ数年で建設した新しい施設である。

### 第 3 章 2 多治見市はどのような都市を目指すのか

#### （4）政策分野別の成果と課題

会長 第 6 次総合計画の 6 つの政策分野の課題の説明があつたが、全体を通して意見はないか。

委員 課題が多く 1 つ 1 つを市民委員会で議論するには時間がかかり過ぎるのではないか。今後どのように進めていく予定か。

会長 第 2 回・第 3 回市民委員会の意見をまとめ議論を始めたいと考えている。

事務局 市民委員会の意見をいただき、まとめながら計画案を練り上げていく。また、特に意見をいただきたい部分については、市民委員会で意見をいただきたい。

委員 行政が行うサービス、民間が行うサービスの境目が曖昧になっているように感じる。そもそも人口減少・少子化・高齢化は行政が対応するのではなく、各個人が考えることではないか。行政は、人口減少・少子化・高齢化の厳しい財政状況の中、今のサービスを維持することが求められているのではないか。

事務局 市民に安心して生活していただくことが行政の役割と考えている。そのため、民間が行うサービスと重なる部分でも、多くの市民が利益を得ることを市民の合意の上で事業を行うことが行政の行うサービスだと考えている。しかし、目の前の課題にのみ対応するのではなく、第 7 次総合計画のように将来予想される課題に対しても検討していく必要がある。

委員 市民合意を条件とするならば、人口増加・税収増加の時代であれば容易かもしれないが、人口減少・税収減少の時代では難しいのではないか。

事務局 企業でいう利益に例えれば、市民が安心して暮らし続けられることを追及するのが行政の役割である。市民合意の中でシビルミニマムとしての政策を選んでいく必要がある。

委員 行政サービスは一定水準までは行わなければならないが、それを実施した後も残る予算がある。その残った予算を全ての分野に広く浅く配分するよりも、どれか 1 つの分野に重点を置いて配分することが人口減少・少子化には効果的ではないか。

事務局 行政改革を進め、配分することができる予算を増やす取組をしている。

その残った予算を広く浅く配分するのか、1つの分野に絞るのかを市民委員会で議論いただきたい。

委員 多治見市は教育に力を入れ教育環境は充実していると考えます。しかし、教員が多治見市独自の教育方法を理解した頃に異動してしまうので、多治見市で長く仕事ができるようにできないか。

事務局 人事異動によるメリットもある。多治見市は教員が充実しているのではなく、行っている教育方針が充実していると考えていただきたい。

委員 教員免許がなくても、市民の中に能力のある人材がいる。そういった人を教育で活用できないか。

会長 行政とキャッチボールして多治見市としての自治の形を作っていきたい。

### 3 その他

事務局 今後の多治見市第7次総合計画策定市民委員会は、第4回は4月27日（月）に、第5回は5月19日（火）、第6回は6月8日（月）、第7回は6月29日（月）に開催する。

<会議終了>